

卒業論文・修士論文執筆上の注意事項

(金沢大学文学部社会学研究室)

[1]	提出期限	[6]	外国人名
[2]	届出・題目決定	[7]	外国語表記
[3]	書式の概要	[8]	図表
[4]	注	[9]	調査
[5]	引用・参考文献	[付]	特別演習について

[1] 論文の提出期限について

1.1 卒業論文（以下卒論と略記する）

金沢大学『文学部学生便覧』の「金沢大学文学部履修細則」第4章第8条の定めるところにしたがい、3月卒業予定者の場合は、1月11日（当日が土曜日の場合は翌々日、日曜日の場合は翌日）午後5時までに学務第一係へ完成原稿を提出しなければならない。ただし、9月末卒業予定者については、8月31日（当日が土曜日の場合は翌々日、日曜日の場合は翌日）午後5時までとする。

それと同時に、審査および口述試験のため、完成原稿のコピーを別途指示した部数だけとして研究室に提出すること。

また、社会学研究室その他で借用の図書もすべて所定の手続きにしたがい返却すること。

1.2 修士論文（以下修論と略記する）

金沢大学大学院『金沢大学大学院便覧』の文学研究科が定める「学位論文の審査及び最終試験の方法に関する取扱要領」にしたがい、3月卒業予定者の場合は、1月10日（当日が土曜日の場合は翌々日、日曜日の場合は翌日）正午までに学務第一係へ完成原稿を提出しなければならない。

その他は、卒論の場合と同様。

[2] 届出および題目の決定について

2.1 卒論

(1) 履修届

3月卒業予定者の場合は10月に、9月卒業予定者の場合は4月に、卒業論文（または特別演習）の履修登録を行う。

(2) 題目決定

教官と相談のうえ、遅くとも11月初旬（9月卒業予定者の場合は6月末）までに決定する。題目の変更は望ましくない。

2.2 修論

教官と相談のうえ、研究題目を4月中旬に学務第一係に届け出る。後期授業開始から2週間以内に、最終決定した正式な題目を、学務係に届け出る。題目の変更は、12月の段階で可能である。

〔3〕 書式の概要について

1. 表紙は研究室で準備するものに統一する。ワープロ用紙は、各人がA4判の白地のものを用意する（感熱紙の場合はコピーを提出のこと。カラーの場合、白黒コピーでもわかるように）。

2. タテ書き、ヨコ書きのいずれでもよい。

3. 構成は、表紙、表題紙、目次、本文、注、資料（調査票等）、文献、裏表紙の順とし、本文～文献については、図表も含めて、通しページを下部中央に付ける。

4. 卒論の枚数は、400字詰原稿用紙50枚以上、100枚以下を原則とする。ただし、この場合の枚数は、本文と注を合わせたものに限り、目次、図表、資料、文献等は含まない。

ワープロの場合は、A4判40字×30行に書式設定し、17枚以上、34枚以下をもって原則とする。そのさい、章ごとに改ページすること。なお、字間は詰め、行間はゆつたりと、本文は原則として明朝体で印字すること。

修論の場合、枚数等に関し、特に規定はない。書式は、卒論の場合と同様にすること。

5. 表紙および背表紙には、題名・学籍番号・氏名をそれぞれ記入する。表題紙には表紙と同内容を記す。

6. 目次には、当該章・節のページ番号もつける。

例：	2	○○○○○○○	・ ・ ・ ・ ・	15
	2.1	○○○○○○○	・ ・ ・ ・ ・	15
	2.2	○○○○○○○	・ ・ ・ ・ ・	24

7. ワープロの場合は、黒で印字する。手書きの場合は、黒または青インクのペンもしくは万年筆を使用する。

8. わかりやすい表現を心がける。誤字や脱字のないように清書にあたっては十分注意し、提出前に確認する。特に、ワープロミスには注意すること。

〔4〕 注について

注は本文中にその位置をアラビア数字で右上に指示し、注の内容は論文末尾に注と題してまとめて書く。単なる文献注は使わない。注は通し番号をつけ、本文末尾に一括する（章、節ごとにはつけない）。

例

{本文中} ・ ・ ・ ニーチェの思想はさほど明確には知識社会学のなかに引き継がれはしなかった⁽⁷⁾。

{論文末尾} (7) 知識社会学にとってニーチェの業績のなかで最も重要なのは『道徳の系譜学』と ・ ・ ・

〔5〕 他著作を引用または参考にする場合について

他著作をそのまま引用する場合は、本文中で必ず「 」でくくり、自分の主張と引用文を明確に区別する（例1参照）。また、他著作を要約して述べる場合や、他著作を参考にした場合も、原著者名と、引用または参考にしたページを特定できるよう明記する（例2参照）。

以下、引用または参照上の注意点を挙げ、その執筆例を示しておく。

1. 引用または参考文献は本文中に記し、論文末尾（注のあと）に引用・参考文献と題して、著者氏名のアルファベット順に、和洋コミでならべる（例1参照）。名前の表記法は、大別して、（1）東アジア圏、（2）欧米圏、（3）イスラム圏の三つのやり方があるので、注意が必要である。

例： 費考通

Weber, Max

2. 引用・参考文献中、日本語の著書・雑誌名は『 』、論文題名は「 」でくくる。また、外国語の著書・雑誌名は、イタリック（斜体）とするか、アンダーラインを引き、論文題名は、英語の場合“ ”でくくり、その他の言語の場合は、その言語の慣習に従う。

3. 訳書を用いる際は、原著者名と原著の出版年を示し、訳〇〇-〇〇頁のように記す。できれば原著を参照し、原著のページも併記するのが望ましい（例3参照）。

4. 発行年、ページ等は半角アラビア数字とし、タテ書きで和書・訳書の場合のみ漢数字とする。

5. 注の文章中に引用・参考文献がでてくる場合も同じ扱いとする。

例1（他著作をそのまま引用する場合）

{本文中} . . . 井上俊(1973: 179頁)が、「(恋愛と結婚の) 相克、矛盾は、(中略) 社会制度ないし社会的役割期待と個人的欲求充足の矛盾であるとも言える」と述べているように、. . .

{引用・参考文献中}

.

- (a.欧文編書論文) Gordon, Steven L. 1981. "The Sociology of Sentiments and Emotion". Rosenberg, M. and Turner, R. S. eds. Social Psychology: Sociological Perspective. Basic Books. pp.562-592.
- (b.和文編書論文) 吉田民人. 1964. 「生活空間の構造—機能分析—人間の生の行動学的理論」 作田啓一編『現代社会学講座V・人間形成の社会学』有斐閣: 136-196.
- (c.欧文図書) Homans, G. C. 1961. Social Behavior: Its Elementary Form. Jossey-Bass Publishers. (=1978. 橋本茂訳『社会行動』誠信書房).
- (d.和文図書) 井上俊. 1973. 『死にがいの喪失』筑摩書房.
- (e.欧文雑誌論文) Yamagishi, T., M. R. Gillmore, and K. S. Cook, 1988. "Network Connection and Distribution of Power in Exchange Networks". American Journal of Sociology. 93: 274-77.
- (f.和文雑誌論文) 山田昌弘. 1976. 「情緒社会学序説」『東京学芸大学紀要第3部門』38: 23-32.

例2（他著作を要約または参考にする場合）

{本文中} . . . コルナイ (Kornai 1971: 39-42) は、経済システムをコントロール・スフィアとリアル・スフィアに二分し、同様にして村上・熊谷・公文(1973: 183頁) は、社会システム一般が制御空間と実行空間から成り立つとしている。

{引用・参考文献中}

.

Kornai, Janos. 1971. Anti-Equilibrium: On Economic System Theory and the Tasks of Research, North Holland.

.

.

村上泰亮・熊谷尚夫・公文俊平. 1973. 『経済体制』岩波書店.

例3（訳書を引用または参考にする場合）

{本文中} ・・・数学の論理を社会現象の分析に適用することが可能である（Zeisel 1957: 23-36=1976: 28-39）。

{引用・参考文献中}

・
Zeisel, Hans. 1957. Say It with Figures. 4th ed. Harper. (=1976. 木村定・安田三郎訳『数学で語る』東洋経済新報社)。

〔6〕 外国人名について

本文中に外国人名がでてくる場合は、原則として、カタカナで表し、原語を付さないでよい。ただし、あまり有名でない学者（例えば社会学辞典に見出しとして出ていない学者）で、引用・参考文献をあげない場合は、初出に限り括弧をつけて原語を銘記する。

例

一般行為体系のメディアについて、パーソンズは・・・と述べている。他方、構成主義のシステム論の立場から、シュミット（Schmidt, Siegfried J.）は・・・

〔7〕 外国語の表記について

外国語の表記が2行にわたる場合は、文綴（語の区切り方）を辞書で確認する。

例

・・・・・・。パーソンズによれば、メディアのインフレーション(inflation)とは、信用を拡張・・・

〔8〕 図表について

1. 図表は別紙に描き、本文で言及するページの直後に挿入する。上下左右の余白は十分空ける。カラーの場合、白黒コピーでもわかるように作成する。

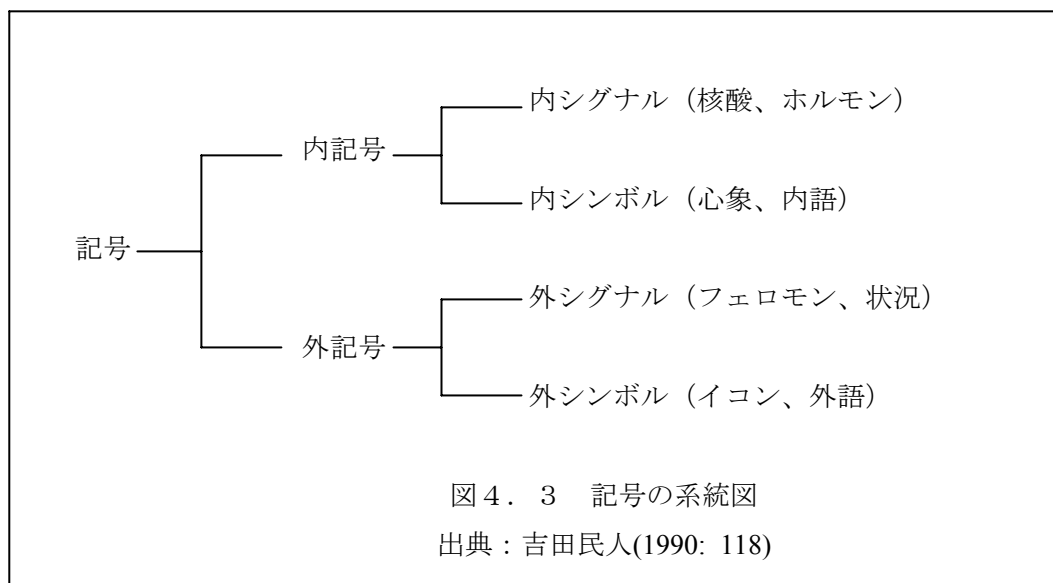
2. タイトルは、図の場合は下につけ、表の場合は上につける。

3. 大きな図表は折込にせず、縮小するか、または、その1、その2、・・・として本文と同様にA4判の大きさにする。

4. 大部になる場合は、末尾に資料として一括する。

5. 図表を他著作から引用する場合、他著作のコピーをそのまま貼らないこと。ただし、地図等の複雑なもので、書き写しが不可能な場合はコピーでもよい。また、図表の出典・引用先〈著者名(出版年: ページまたは図表番号等)〉を明記しておくこと。

図の例（第4章の3番目の図になる場合）*以下の例での外枠は例示のためであり、実際の論文では不要



表の例（第5章の2番目の表を他著作から引用した場合）

移動指数	調査時点		
	1965	1975	1985
事実非移動率	.574	.422	.357
ベニーニ指数			
社会全体	.436	.423	.361
専門・管理	.437	.285	.338
ノンマニュアル	.192	.180	.237
マニュアル	.400	.260	.250
自 営	.327	.315	.318
農 業	.809	.752	.850

注1. 1965,75,85年、社会階層と社会移動（SSM）調査による。
注2. 小林ほか(1990: 70 表4.3)を引用。

〔9〕 調査について

自ら行った調査の報告をおこなう場合は、論文末尾（文献リストの前）に地図や調査票を必ず資料として添付する。単純集計表等（割合を％で示す）も資料として添付が望ましい。また、国や県単位のマクロデータを用いた場合も、資料として素データを表の形で示すことが望ましい。

インタビューの場合は、日時、場所、相手の肩書等を示す。

他人の調査を引用する場合は、調査概要を本文中または注で明記すること。

〔付〕 特別演習について

行動科学科打ち合わせ会（1983.4.25）の取り決めにしたがって、次のように、特別演習を運用する。

1. 卒業論文に代わって、特別演習を選択・履修することができる。
2. 特別演習は、特定の問題に関する系統的な学習、関連文献の総覧、あるいは特定文献の翻訳などを行うものである。
3. 特別演習については、4 学年のはじめにガイダンスを行うこととする。
4. 特別演習を選択する場合は、5 月 10 日までに、研究予定題目を添えて、その旨届け出るものとする。
5. 卒業論文から特別演習に変更するとき、その期限は、7 月 10 日までとする。またその逆に、特別演習から卒業論文へ変更するとき、後期の初めを期限とする。
6. 特別演習を選択した者については、担当教官を一名定める。
7. 特別演習を選択した者については、つきに一回以上面接指導を行うこととする。
8. 特別演習の単位を取得しようとするものは、休学を含まない 2 学期間、担当教官の面接指導を受けなければならない。
9. 特別演習を選択した者は、卒業論文の提出日までに、特別演習報告を提出しなければならない。

参考文献

American Sociological Association. 1997. *American Sociological Association Style Guide*. 2nd ed. Washington, DC: American Sociological Association.

Becker, Howard S. 1986. *Writing for Social Scientists*. Chicago: University of Chicago Press. (=1996. 佐野敏行訳『論文の技法』講談社〔学術文庫〕)。

日本社会学会編集委員会. 1999. 『社会学評論スタイルガイド』日本社会学会.

University of Chicago Press. 1993. *The Chicago Manual of Style*. 14th ed. Chicago: University of Chicago Press.